

P2 市議会臨時会 [9月] 提出議案の概要について

質問	回答
Q1 自動運転は、いつ頃を目途にレベル4の実証実験をやる予定なのか？	A1 昨年度購入した車両を用いてレベル4に向けてレベル2の実証実験を年明け、来年度にかけてレベル4の取得を目指す。データを蓄積して行ってきたが、AIを活用する仕組みを使いながら実証を行い、来年度取得を目指す。
Q2 情報公開条例では、手数料はいくらくらいか、他の県内市町の状況は？	A2 三重県内での導入は現時点で把握していない。近隣の愛知県では豊田市などがすでに手数料を導入している。基本は1件につき300円、電子申請の場合は200円とする方向で検討している。
Q3 いつ頃から？	A3 周知期間を半年程度置く必要があるため、来年度からの施行を目指す。

P14 令和8年度 桑名市台湾ミッション（市長トップセールス 報告）

質問	回答
Q1 UMC幹部との対話で具体的にどういうことを伝えた？	A1 立地の利便性では日本の真ん中に位置し、どこへ行くにもアクセスが非常に良い点。産業の集積として三重県が電子デバイス製造品出荷額等で全国1位であり、関連産業の基盤が整っている点。需要の高さとしてUMCが製造する半導体（車載用パワー半導体やデータセンター向けなど）の供給先となる自動車関連などの産業が周辺に豊富にある点。人材育成ポテンシャルでは、三重県全体で半導体人材育成ネットワークの構築を進めていること、また桑名市からほど近い名古屋圏（人口300万人以上）を含めた広域で半導体人材を育成できる高いポテンシャルをアピール。
Q2 500億円をお超える投資をどう受け止めているのか？	A2 自身として6回目の台湾訪問となり、ようやく多度町のUSJC工場における500億円超の大規模設備投資計画という形で具体的な実を結び、念願の投資発表を大変嬉しく思っている。しっかりと桑名で大きな仕事を展開できるよう、市としても強力にサポートを行っていく。
Q3 桑名高校のサマープログラムは初めての取り組み。今後どのような人材育成していくのか？	A3 高校生を対象とした理由は、日本では、文系・理系の選択など自身の将来の進路を高校2年生頃に考え始めることが多いため。この早い段階で、最先端の半導体産業や宇宙産業、台湾の文化に直接触れることで、将来の進路における新しい選択肢を広げてほしいという狙いがある。参加した生徒から「参加できて本当に良かった」「半導体産業によって街が変化していく姿に驚いた」「将来半導体の仕事に関わってみたい」といった前向きな声が多数聞かれ、初の試みとして非常に成功したと感じている。桑名市のこの取り組みを1つのモデルとして、今後は高校、高専、大学などと連携しながら、半導体分野に興味を持ち、将来を託せる人材を地域で増やしていきたいと考えている。

P19 NTN総合運動公園屋内プール

質問	回答
なし	

P24 人口減少対策パッケージの更なる推進

愛知大学生による政策提案発表会を開催します！

質問	回答
なし	

P26 女性のウェルビーイング推進事業

“女性のウェルビーイング応援川柳”募集します！

質問	回答
なし	

P29 大河ドラマ誘致プロジェクト 令和8年度「くわな時代まつり」開催

質問	回答
なし	

その他

質問	回答
なし	